



とのやま

【学校教育目標】生き抜く力を身につけ、自ら輝く生徒の育成

【目指す生徒像】自立のために自律できる生徒



富士見台中学校HP

年の瀬に寄せて ～受け継ぐ心、つなぐ未来～

8月の残暑の中で始まった2学期。季節の移ろいとともに、生徒たちは様々な活動を通して大きく成長しました。そして、年の瀬を迎える今、日本ならではの行事や風習に心を寄せながら、新たな年へと歩みを進めてほしいとの思いを込め、終業式で以下を話しました。

(前略) さて、年の最後の日、12月31日は「大晦日」。この夜には「除夜の鐘」が108回鳴らされます。人の心には108の煩惱があるとされ、それを一つ一つ打ち払うことで、新しい年を清らかな心で迎えようという願いが込められています。鐘の音に耳を澄ませながら、自分の一年を振り返ってみるのもいいですね。

来たる1月1日は「元日」、その朝を「元旦」と呼びます。「一年の計は元旦にあり」と言われるように、新しい年の朝に目標を立てることは、とても意味のあることです。皆さんも、心を静かに整えて、自分の一年を思い描いてみましょう。

元日には「初詣」に出かける人も多いかもしれません。神社やお寺にお参りし、新しい年の健康や幸せを願います。神社では、鳥居をくぐる時は端を歩き、参拝では「二礼二拍手一礼」の作法を守ると、より丁寧な気持ちが伝わると言われています。こうした所作の一つひとつにも、日本人の美しい心が表れているように思います。

そして、今年の元日は、能登半島地震からちょうど1年という日でもあります。今もお、仮設住宅での生活を続ける方々がいらっしゃいます。私たちがこうして日々を過ごせることは、決して当たり前ではありません。だからこそ、感謝の気持ちを行動に変え、誰かの「ありがとう」につなげていく—そんな思いを胸に、新しい年を迎えてほしいのです。

年が明けて1月7日には「七草がゆ」を食べる風習があります。春の七草「芹、薺、御形、繁縷、仏の座、菰、蘿蔔」を入れたおかゆで、年末年始で疲れた体をいたわるのです。この日は、始業式の前日でもあります。新しい学期に向けて、心と体を整える良い機会になるかもしれません。

日本の年末年始には、こうした美しい風習や願いがたくさん込められています。今、子どもである皆さんが、こうした習慣を受け継ぎ、次の世代へと伝えていってくれることを願っています。(以下略)

今年も残すところわずかになりました。新しい年が、生徒や保護者の皆様にとって素晴らしいものとなるよう心から願っております。また、地域の皆様には、日頃より温かい御理解と御協力を賜りましたこと、深く感謝申し上げます。

どうぞよい年をお迎えください。